



令和8年4月27日

令和8年度 高等学校中堅教諭等資質向上研修

講義・演習

「多様な生徒の自立と社会参加をめざすキャリア教育」

(特別支援教育の視点から学ぶ)

県立総合教育センター 特別支援教育研修課

内容

はじめに

1 関わりやすい生徒と関わりにくい生徒

2 キャリア教育と進路指導

3 事例検討(進学、就職)

4 発達障害

5 進学を見据えた高等学校段階での指導・支援

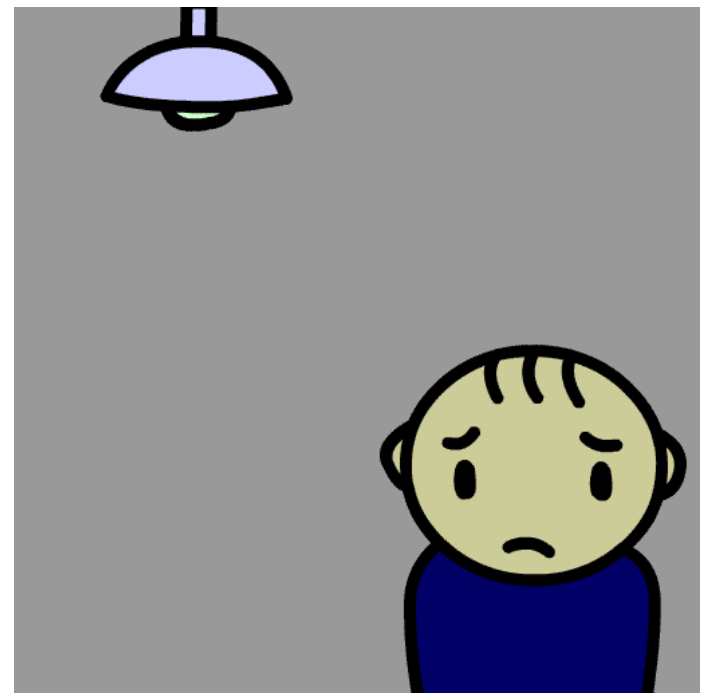
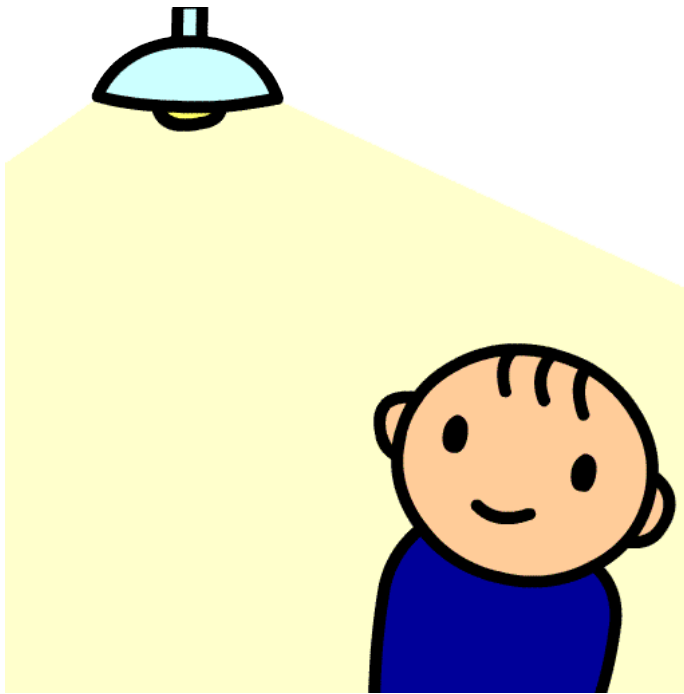
6 就労を見据えた高等学校段階での指導・支援

おわりに

はじめに

教員として、

生徒に**どのような人生**を送ってほしいですか？



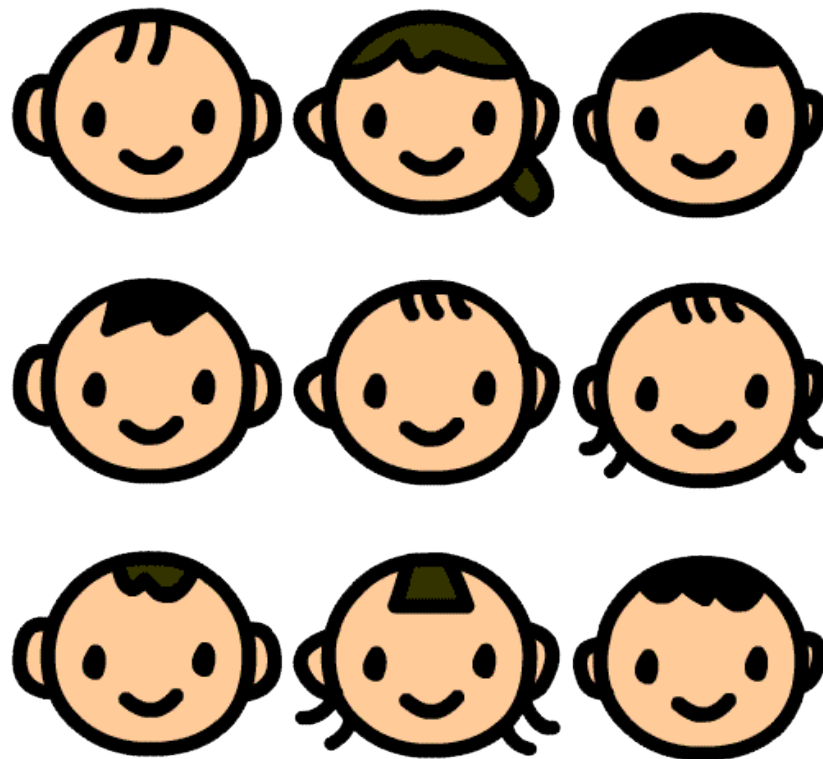
ウェルビーイング

- **身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい**、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念



- 子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要
- また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会につながっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められます。

多様な生徒とは



文部科学省(2023)が説明する「多様な教育的ニーズ」
障害や不登校、日本語能力、特異な才能、複合的な困難等の多様なニーズを有する子供たち

関わりやすい生徒とは

教師が陥りがちな世界観

こっちは被害者 ← → 加害者



教師には見えていない 子どもの本音

はあ～
授業は退屈だけど
お付き合いして
おくか…

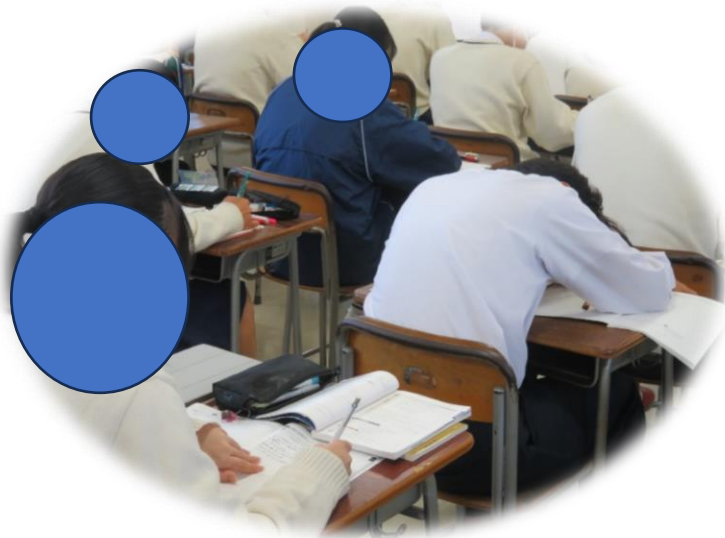
怒られたくないから
静かに黙って聞いている
ふりだけしておこう

→ 稚拙な指導の中で
黙って過ごすことを繰り返し
状況に身を委ねることを学ぶ
= 「過剰適応」



関わりやすいと思っている生徒も実は・・・

関わりにくい生徒とは



授業中寝ている



「内職」をする



指示に従わない



集中が持続しない

子どもにおける3つの気質

	気楽な子	気難しい子	気後れする子
出現率	約40%	約10%	約15%
様子	生活リズムが規則的、新しいことに前向きに対応、変化に対応する適応性が高い	生活リズムが不規則、新しい刺激に否定・拒否的、気分の表出が拒否的に偏りやすい	新しい刺激に当初は拒否的だが、時間をかけていくことで徐々に適応していく
関わる側の心情	関わりやすい、手がかからない	不安、罪悪感、焦燥感、過度な要求、 イライラ、怒り などを伴いやすい	

ほか、35%は、どれにも該当しない。

子どもにおける3つの気質

関わりづらい子どもがいるのは特別なことではない

(ニューヨークでチェスとトーマスが行った研究から田中康雄が加筆・修正)

特別な教育的支援を必要とする生徒

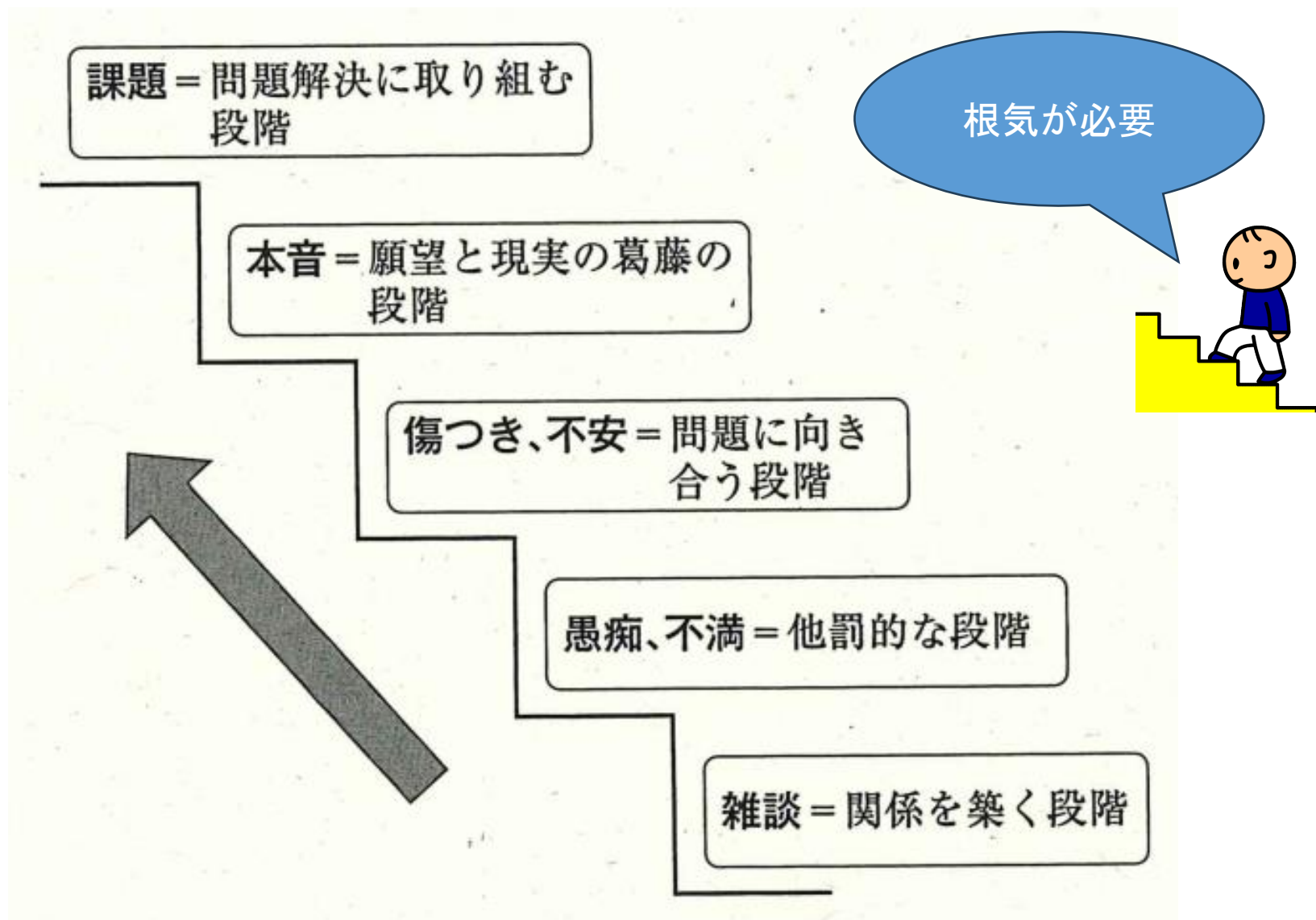
校 種	H14	H24	R 4
公立小・中学校	6.3%	6.5%	8.8%
公立高等学校 (通信制除く)	—	—	2.2%

※高等学校は、公立の全日制又は定時制に在籍する1～3年次のみを調査対象とした

【参考】

- ・ 知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合
- ・ 前回 (H24) 調査と同様、「学習面で著しい困難」 > 「行動面で著しい困難」
- ・ 10年間で、義務教育段階において、通級を受ける児童生徒数＝約2.5倍
- ・ 通常の学級担任を含む教員や保護者の特別支援教育に関する理解が進み、今まで見過ごされてきた困難のある子どもたちに目を向けるようになった

関わりにくい生徒との信頼関係を築くまで



保護者の気持ちの理解

子育てに悩む
保護者の気持ち

私だけの音楽
私だけの未来

8.20 (土)
パフォーマンスコース
特別体験!
人気のダンサー
FUZZINのレッスンが
無料で受けられるチャンス!

8.28 (日)
株式会社EXPG
EXILE PROFESSIONAL GYM
株式会社LDHグループ
スタッフによる
特別オープンキャンパス!

2016 8.20 21 28 9.11 18 25
OPEN CAMPUS

Big we Come!
留学生
大歓迎

ESP Entertainment
AO入学
エントリー
受付開始

ESPエンタテインメント
0120-37-8607 http://www.esp.ac.jp/enter/

拝啓

大変暑かった夏から、ようやく秋らしくなってきた
今日この頃、いかがお過ごしでしょうか?
千歳先生におかれましては、お元気で過ごされ
の事と思います。

さてこの度嬉しい報告をさせて頂きたくハズ
を取りました。
現在通学しておりますESPインターナショナル
専門学校のおマカバのパンフレットのモデル
に採用して頂きました。

高校 在学中はご心配ばかり
お掛けして大変申し訳ありませんでした。
しかし、現在夢に向かって歩き始めた息子に
嬉しく、陰ながら支えていく気持ちでいます。

これを励みに変身してくれと期待しています。
パンフレット同封しています。
今の様子をみて頂ければ幸いです。

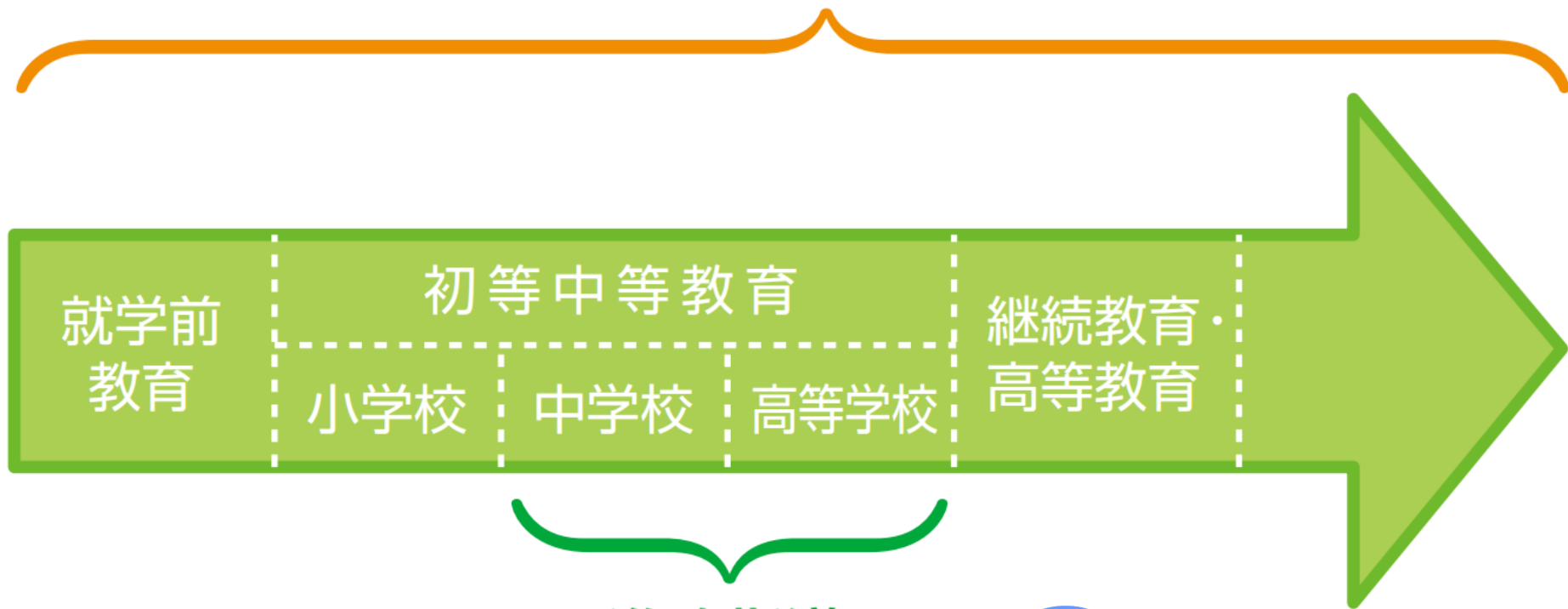
最後の教育機関

- 「高等学校は、進学や就職といった生徒の進路にかかわらず、中学校卒業後のほぼ全ての者が、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けるとともに、自立に向けた準備期間を提供することのできる**最後の教育機関**となる」

(中央教育審議会,2014)

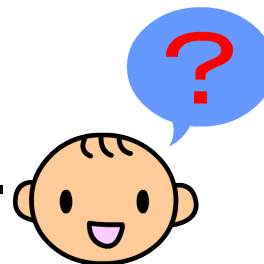
キャリア教育と進路指導との関係

キャリア教育



進路指導

発達障害等のある生徒の場合は……



キャリア教育に関わる用語の定義・説明

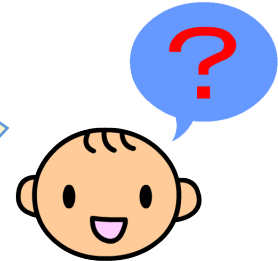
キャリア教育	「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」 (中央教育審議会,2011)
職業教育	「一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育」 (中央教育審議会,2011)
進路指導	「生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けることができるよう、指導・援助すること」 (文部科学省,2004)

キャリア教育と職業教育の違い

進路指導とキャリア教育の概念は重なり合うものであり、キャリア教育の中に進路指導が包含されている。生徒の進路選択を支える上では、キャリア発達を支援し、社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を支えていくことが重要である。

卒業後を見据えたキャリア教育や進路指導

高等学校に在籍する発達障害のある生徒に対し、卒業後の進学・就労を見据えつつ、**キャリア教育や進路指導**を適切に進めるために必要な基礎知識とは？



- 発達障害がある場合、高等学校卒業後、**進学先**や**就労先**で困難を抱えるケースも少なくない。
- 卒業後を見据えた**キャリア教育**や**進路指導**の充実が望まれる。
- 指導・支援には幅広い知識が必要！

事例検討1 大学に進学したAさん



- 大学1年生のAさんは、どの講義にも休まず出席し、板書はすべてノートに漏れなく写すなど、まじめに取り組んできました。Aさんは「きっとテストでは良い点を取れるだろう」と自信をもって定期考査に臨みました。
- しかし、Aさんの自信に反して、ほとんどの問題に解答することができず、いくつかの科目については、単位の修得が危うい状況になってしまいました。
- 特に、「～について論じなさい」というような論述形式の問題については、ノートを持ち込むことが許可されていましたが、自分のノートを見返しても何を書いていいのかわからず、ほとんど解答することができませんでした。
- このままだと卒業に必要な単位が取れないのではないかと焦っていますが、一緒に講義を受けている友人は困っている様子もなく、誰に相談したらいいのかわかりません。Aさんは次第に大学に行くのが辛くなってきました。

事例検討1 協議内容

Aさんの様子で、進学先と在学中に共通する点について、あなたの気づきをあげてみてください。

進学先の様子から、高等学校在学中にAさんにどのような指導・支援があればよかったですでしょうか。

事例検討1 在学中に取り組む指導・支援の手立て

①

②

③

事例検討2 特別養護老人ホームに就職したBさん

- Bさんは**介護福祉に興味を持ち**、特別養護老人ホームに就職しました。この職場の勤務形態は、**早朝・昼・夜の三交代シフト制**で、一つのシフトを3日続けて勤務したのち、休日を1日挟んで次のシフトに移ることに なっています。
- Bさんは**熱心に働いており**、自分の作業を終えた後は他の職員の仕事を積極的に手伝ったり、勤務終了時刻がきても、切りのよいところまで作業したりしている姿が見られています。
- 就職して3か月が経過したころから、Bさんが早朝勤務のときに遅刻することが増えてきました。**特に早朝勤務の初日に遅刻**することが多いことから、職場の先輩から「夜勤や早朝勤務の時間帯に慣れるまでは、休日はしっかり休む方が良い」と助言を受けたので、**休日は外出しない**ように心がけていますが、なかなか改善が見られません。
- 他の職員から「Bさんが遅刻することが多くて業務の引き継ぎができず、残業しないといけないことが多い」と苦情が出ています。



事例検討2 協議内容

Bさんの様子で、就職先と在学中に共通する点について、あなたの気づきをあげてみてください。

就職先の様子から、高校在学中にBさんにどのような指導・支援があればよかったですか。

事例検討2 在学中に取り組む指導・支援の手立て

①

②

発達障害と知的障害の違い

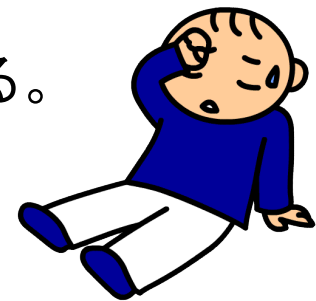
認知発達の偏り   認知発達の遅れ

発達障害

知的障害

※できることとできないことの
凹凸が大きい

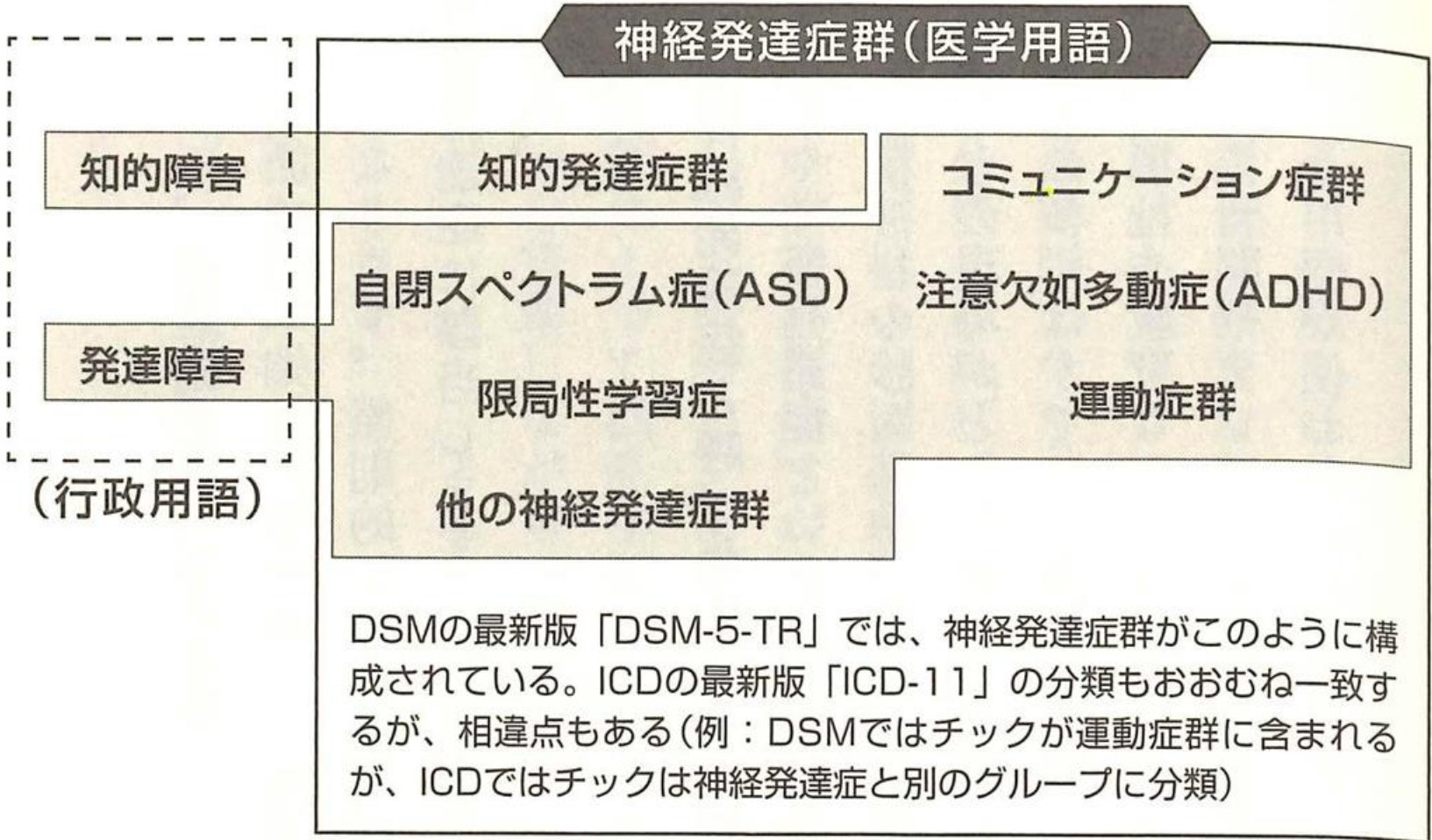
- 認知発達に**偏り**（アンバランス）があると
できることとできないことの凹凸がとても大きくなる。
認知発達に偏りがある場合、やる気や努力だけで
苦手を克服することは非常に難しい。



※認知・・・知覚・記憶・思考などを含む学習にかかわる知的活動全般を指す。

医学用語と行政用語

神経発達症群(医学用語)と発達障害(行政用語)の違い



大人になって気付く発達障害



●他人とのコミュニケーションが苦手、●その場の空気が読めない、●遅刻や忘れ物が多い…。もしかしたら「発達障害」が原因かもしれません。発達障害は、生まれつきみられる脳の働き方の違いによるものです。子どもものころには気づかずに過ごしていたけれど、**大人になってから周囲に適応しづらくなり気がつく場合もあります。**

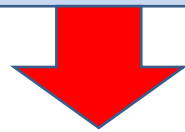
大人になって発達障害に気が付くのはなぜか

○発達障害は生まれながらの脳の働き方の違い

→「大人になってから発達障害になる」というわけではない。

○本人も周囲の人も発達障害と気付かずに大人になることも少なくない。

多くの場合、発達障害の特性は子どもの頃から現れるが、その頃は、その特性を個性の一つとして捉えられたり、周囲からフォローされたりするため。

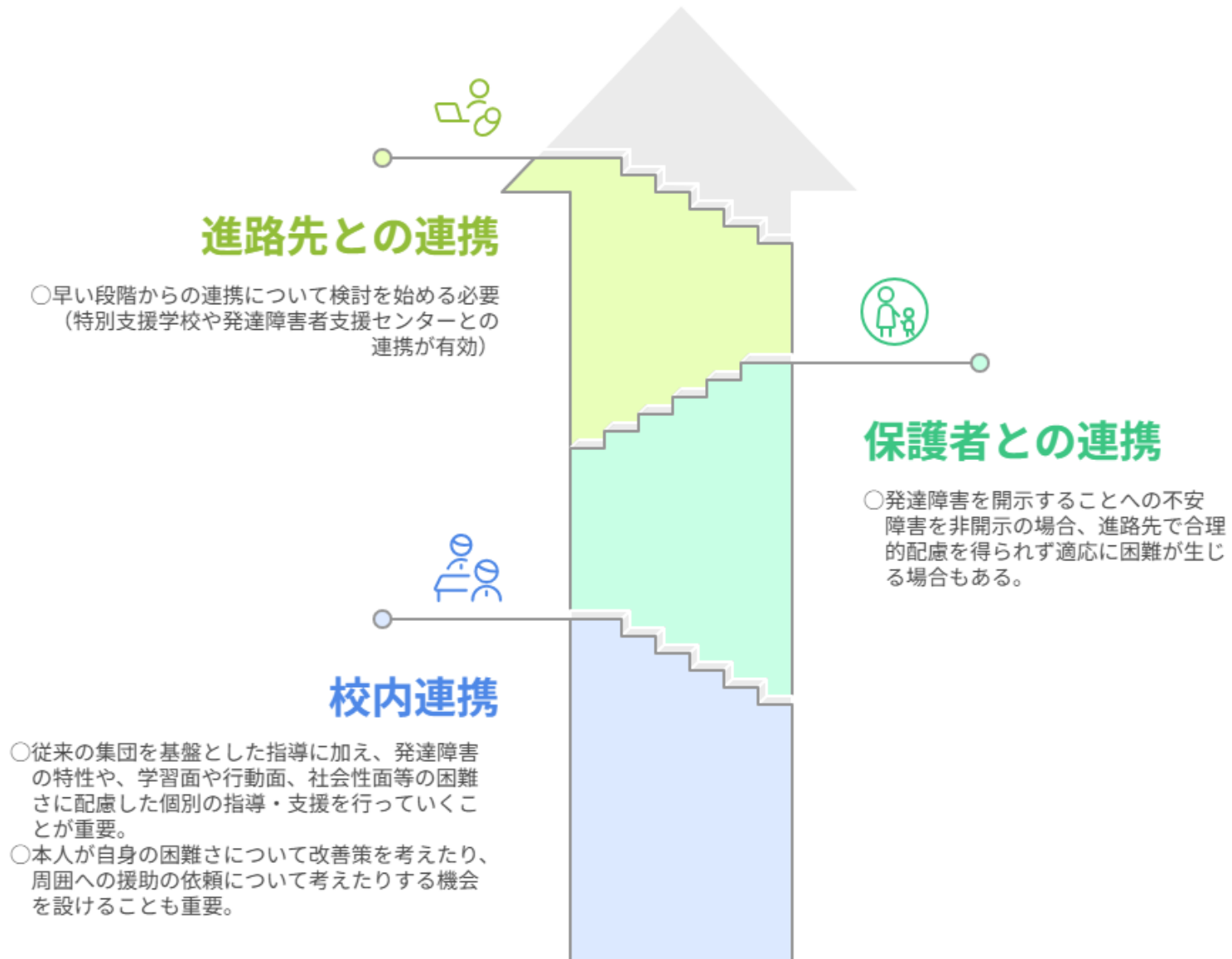


○しかし、**進学や就職で社会に出ると、人間関係が複雑になり、様々な人とコミュニケーションをとることになる。**

○相手の表情からすべきことを察したり、周囲に合わせて行動したり、仕事を計画的に進行するなど**社会性**を要求される。

○潜在的に持っていた発達障害の特性が浮かび上がり、人間関係や仕事でつまずき、そのとき初めて発達障害に気づくケースがある。

進学を見据えた高等学校段階での指導・支援



進学を見据えた高等学校段階での指導・支援

進学先で直面する困りごと

➤ 授業・履修

電子システムの活用の難しさ、支援や配慮を要請することの難しさ、授業選択の幅に対応することの難しさ、計画的な授業選択の難しさ、単位取得要件についての理解の不十分さ、多様な授業形態への適応の難しさ、単位取得に必要なレポート作成の難しさ

➤ 就職活動

学業と就職活動の両立の難しさ、自己理解の難しさ、障害の開示・非開示の検討の難しさ、障害の開示・非開示の検討

進学を見据えた高等学校段階での指導・支援

仕事理解を促す取組

- 進学後の就労と必要とされる適性を踏まえ進学先を決定する

将来希望する仕事に就くためのキャリアルートを意識して進学先を検討したり、進学後の就労を見据えつつ、自身の希望と適性に合った進路先を選択したりする必要がある。

- 高等学校段階で進学後の就労を見据えた力を身に付ける

学業と並行し、自ら卒業後を見据え必要な力を身に付けたり就職活動を進めていったりすることが求められる。

発達障害のある学生への修学支援の状況

発達障害のある生徒に対する配慮上位3項目

	学習障害	注意欠陥多動性障害	自閉症
1	別室を設定	別室を設定	別室を設定
2	試験時間を延長	試験時間を延長	試験時間を延長
3		文書による伝達	文書による伝達

➤ 入試の配慮

➤ 授業の支援

配付依頼文書の配付、出席に関する配慮、授業内容の代替・提出期限延長等

➤ 授業以外の支援

専門家によるカウンセリング、自己管理指導、対人関係配慮等

入試の配慮にあたっては、障害があることの証明と、これまでの配慮・支援の実績が必要となるため、計画的に申請準備を行うことが重要である。

発達障害のある学生への修学支援の状況

- 「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第一次まとめ）」によれば、
- 入試や単位認定等のための試験では、**評価基準の変更や及第点を下げる等は合理的配慮ではなく、障害のある学生の能力・適正等を適切に判定するために、障害のない学生と公平に試験を受けられるよう配慮することが合理的配慮であると指摘している。**

(文部科学省, 2012)

関西学院大学 > 学生生活・支援 > キャンパス自立支援室について

キャンパス自立支援室について

関西学院大学で学ぶ障がいのある学生への修学支援が円滑に行われるように、2006年4月に全学組織として西宮上ヶ原キャンパスと神戸三田キャンパスに、それぞれコーディネーターを置き、各学部との連携を図りました。また、バリアフリーに向けたキャンパスの整備、あるいは、教職員・学生への支援活動への理解や啓発活動など、2011年4月より、「総合支援センターキャンパス自立支援室」へと組織変更いたしました。

支援の内容

修学や就労の個別相談、学内設備の改善、定期試験等の配慮の調整、授業担当教員への配慮事項の伝達や連携の促進など、さまざまな支援を行っています。

詳細は以下の関連ページよりご確認ください。



障がいのある学生への修学支援・就労支援
関連ページへのリンク

精神障がい・発達障がい
学生への支援例

修学相談・スケジュール
管理・履修相談・授業中
に生じた問題への対応・
進路相談等、障がいの状
況や困り具合に応じて個
別に対応します。

京都大学 障害学生支援部門



Kyoto University
Disability Resource Center
学生総合支援機構 障害学生支援部門

サイト内検索



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

Menu

Top

DRC

—
Close

目的・ポリシー

利用にあたって

組織構成・スタッフ

規程・沿革等

システム・フロー

—
Close

DRC: Disability Resource Center



学ぶことや研究することに障害（社会的障壁/Disability）が生じた時、どのような解決策や選択肢があるでしょうか。

DRCは、障害のある学生や関係する教職員等との対話を根幹に、様々な選択肢や方法を探り、そのために必要な資源（Resource）を提供するための窓口です。

京都大学 障害学生支援部門

みなさんには学ぶ権利があります。本来、学び方にはさまざまな方法がありますが、多くの人は提示された方法や環境に適応しながら学んでいます。

しかし、心身の機能等に何らかの制限や特性がある場合、多くの人が何気なく適応している方法や環境ではうまく学べない状況（“障害”）が生じることがあります。

このような”障害“、つまり普遍的に与えられた権利を享受するうえできょうじゅ障壁となっている設備・前例・ルール・慣行に対しては、“合理的配慮”（変更及び調整）を求めることができます。

このことは、障害者権利条約・障害者差別解消法・対応要領（京都大学）でも認められている権利です。

※上記のような「障害は社会によって作られる」という捉え方を「**障害の社会モデル**」と言います。

就労を見据えた高等学校段階での指導・支援

就労時に直面する困りごと

- 就職活動を進める前段階で多くの問題が山積していることがある
 - 生徒理解を早めに進めること
 - 必要に応じて外部の相談・支援機関と連携する
 - 在学中から卒業後も伴走できる支援者と結びついておくこと
 - 相談のプロセスにおいて就職に必要な情報を整理しておくこと
- 職場定着
 - 伝達方法を具体的・明示的なものにする
 - 作業環境を本人の特性に合うよう調整すること

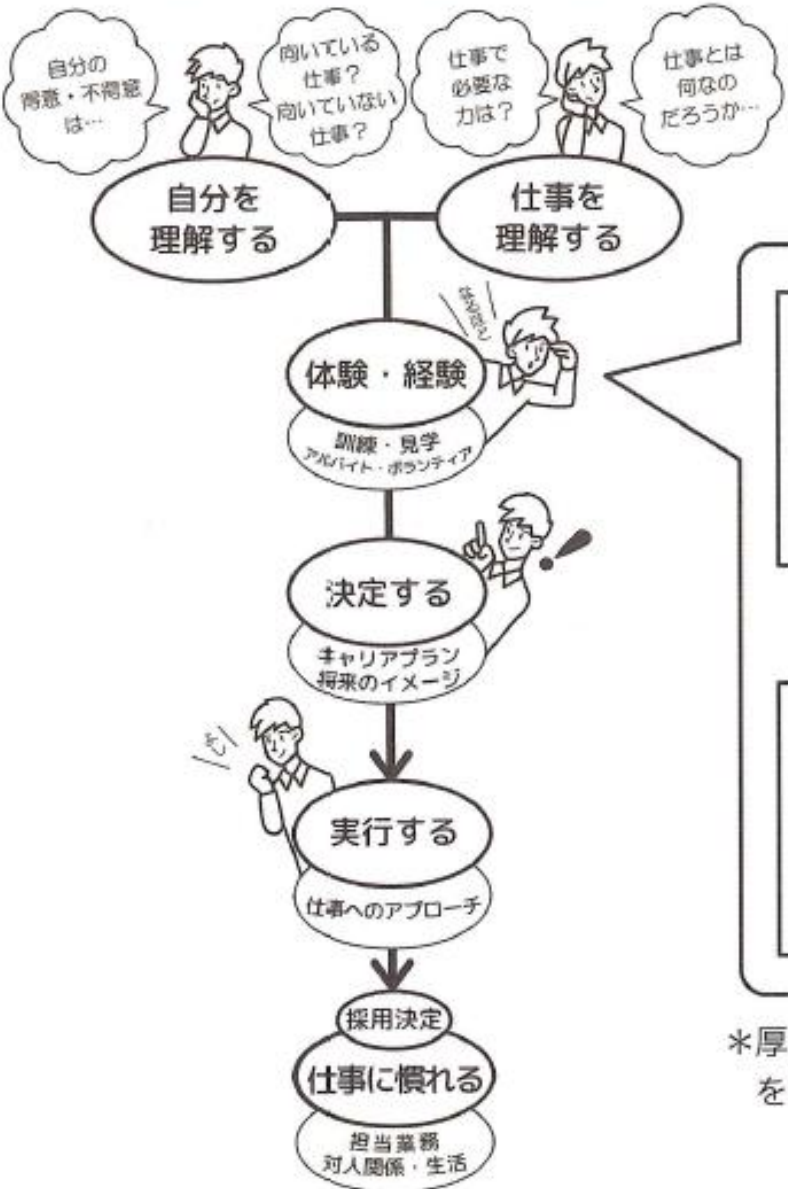
日常生活の困難さ

身辺自立に関する一連の行動や習慣は、幼い頃から学校教育や家庭教育を通じて獲得され、社会人になる頃にはほとんどの人ができるようにになってしかるべきものであるが…

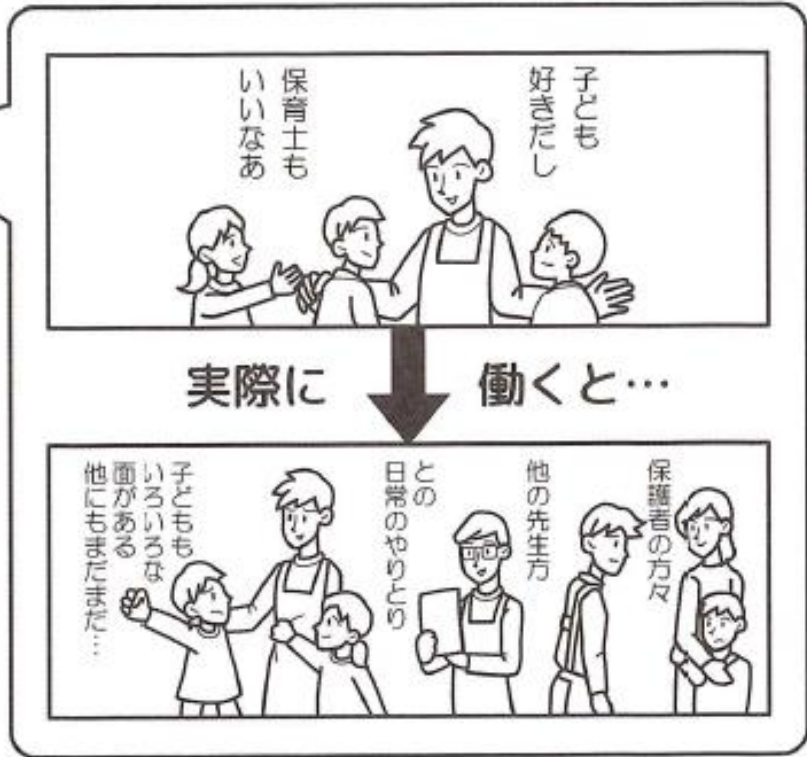
- トイレ、食事のマナー、食事の支度、身なり、清潔、整理整頓、病気やけがの予防と対処、洗濯掃除、余暇 等
- いざ社会人になり、家族等の支えがなくなるタイミングで、日常生活上の困難として現れることがある。
- 日常生活は、その人にとって当たり前で埋め尽くされているため、そもそも困っていることに気が付かない場合がある。
- 仕事がうまくいかない、トラブルが起こる背景に、日常生活の問題も潜んでいる可能性がある。



進路先の意思決定に向けた支援の流れ

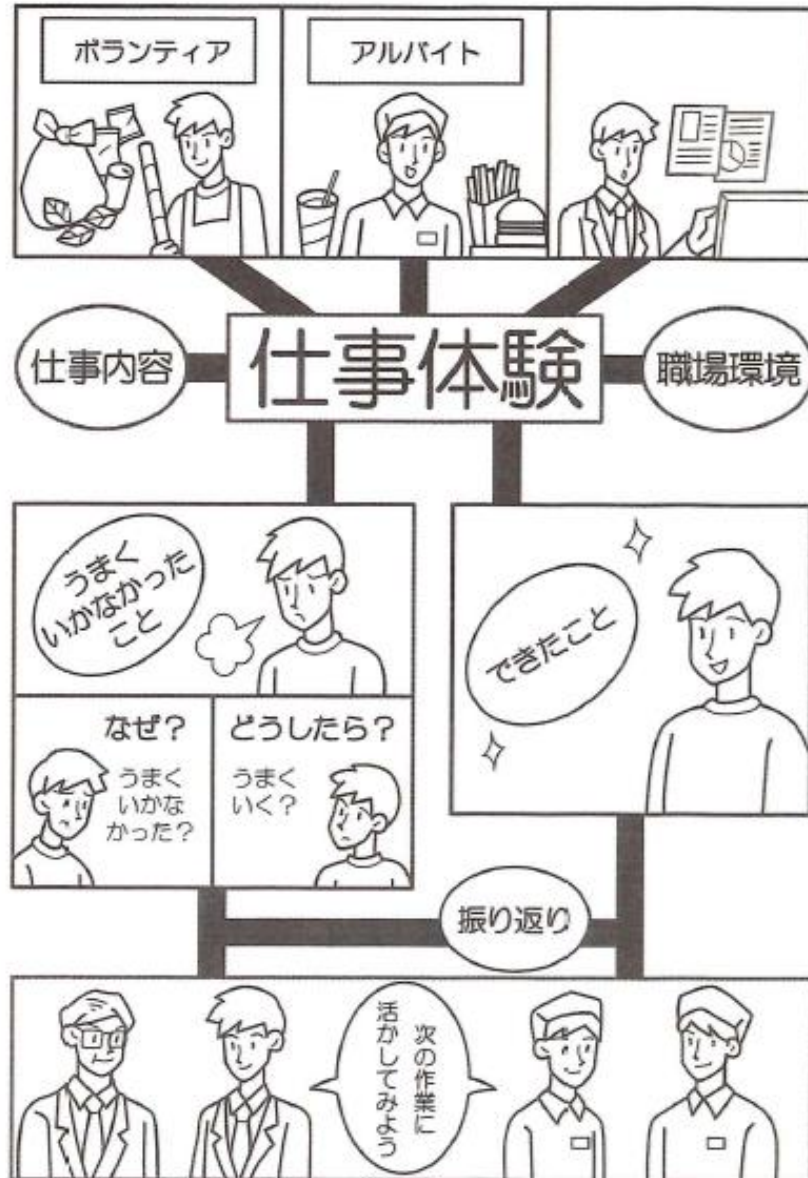


自分が希望する仕事の状況を理解しているかで自分に合った仕事と言えるかどうかの判断も変わってくる。



*厚生労働省(2001)「キャリア形成のための6つのステップ」を参考として作成

就業体験を通じた自己理解の重要性



発達障害のある人の場合、新卒での就職の失敗・挫折経験が自分の特性に合った仕事について考えるきっかけになることがある。

やりたい仕事と求められる仕事についての理解



実際の仕事場面では、仕事そのものに直結するスキルや知識だけを使うのではなく、いろいろな要素(臨機応変に対応等)が複雑に影響しあい業務として進んでいく。

働く意欲が高い人・定着が良い人の特徴

➤ 働く意欲を高めるためには？

相談支援をうまく活用したり、自分自身について理解を深め、目的や目標を持ったり働く意欲や動機を持ったり素直に人の話に耳を傾けたりすることができる。

➤ 職場適応を支えるためには？

うまく働き続けられる人では、一定の生活習慣が身に付いており、自分自身について理解を深め、自分でストレス対処や他者への相談ができたり、周囲から支援が得られる環境があり、それを受け入れる素直さや情緒の安定があったりする。

	特徴	育成の取組
働く意欲	<ul style="list-style-type: none">・相談を活用している・自己理解ができている・目的や目標がある・素直な性格・働く意欲が強い・働く動機を持っている	<ul style="list-style-type: none">・お金の使い道や使い方の支援・働くための訓練や指導・連携による支援・特性の伝達・学習、相談、実習等の支援・自己理解の支援・障害や仕事の情報提供

合理的配慮の考え方



岩を取り除いて平らなグラウンドにするには？

特性を理解して適切な対応をとることで、グラウンドが平らになり野球を楽しめることになる

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2016)大学における支援体制の構築のために 発達障害のある学生支援ガイドブック
発達障害のある児童生徒が置かれている児童生徒の困難さをBlazer(1999)を参考にしてイラストに表現したもの

合理的配慮の前にナチュラルサポート

ナチュラルサポートとスペシャルサポートの
グラデーションで教えていくことが大切

助けを求めるときの段階

ナチュラルサポート

スペシャルサポート

1段階 周囲の人に少しわかってもらって簡単なお願いをする

2段階 親子で学校の先生にお願いする

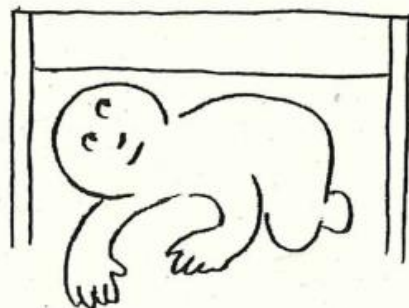
3段階 検査した上で、医師など専門家の意見書とともに配慮
してほしい内容をまとめて提出し、**合理的配慮**を求める

2つの支援方法

個人に働きかける方法

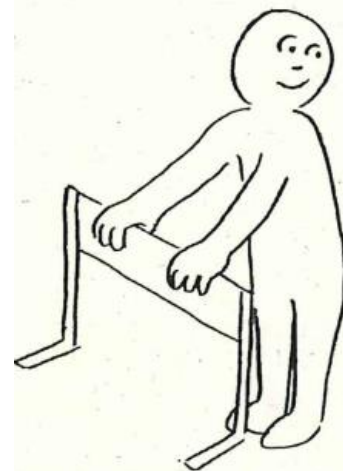


ハードルを乗り越える

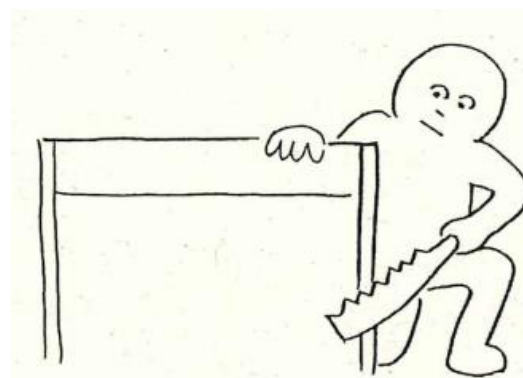


ハードルをよける

環境に働きかける方法



ハードルを横にどける



ハードルを低くする

援助要請スキル

自分の求めている援助を的確に他者に求めるための能力
(本田ら, 2013)

➤ 援助要請スタイル (永井, 2013)

- ① **援助要請自立型** : 困難を抱えても自身での問題解決を試み、どうしても解決が困難な場合に援助要請を行う。
- ② **援助要請過剰型** : 困難を抱えた際に、十分な自助努力を行わずに安易に援助要請を行う。
- ③ **援助要請回避型** : 困難な問題を抱えても一貫して援助要請を回避する。

■ 通級による指導

→ 援助要請スキルを育む場

■ HRクラス

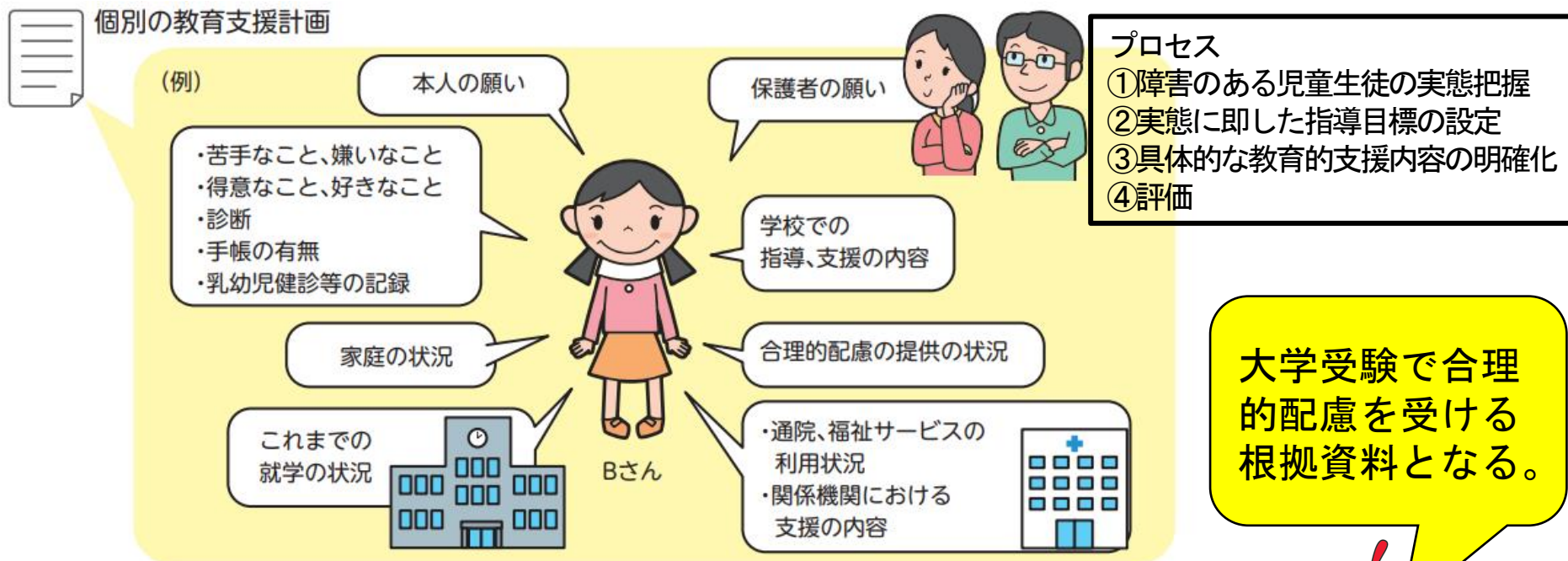
→ 援助要請スキルを発揮する場

➤ 援助要請自立型へのステップ

- ▼ 自分ではできないから代わりにやってほしい。
- ▼ 自分だけではできないから一緒にやってほしい。
- ▼ 途中まで手伝ってほしい。
- ▼ うまくできないからアドバイスをしてほしい。
- ▼ もっとうまくできるようにアドバイスをしてほしい。
- ▼ うまくできるか見届けてほしい。

個別の教育支援計画・個別の指導計画

- 作成に取り組むことで、保護者・関係機関との具体的な連携が進み、教職員の協力体制の構築にもつながる。
- 作成過程で、指導や支援の具体的な方向性が定まる。



※ 個別の教育支援計画は、個別の指導計画を作成する（指導内容及び指導方法を定める）際の材料となります。
※ 通級指導の利用や指導内容及び指導方法の検討に際しては、医学的な診断や手帳の有無のみにとらわれないように留意し、総合的な見地から判断する必要があります。

兵庫県特別支援教育第四次推進計画

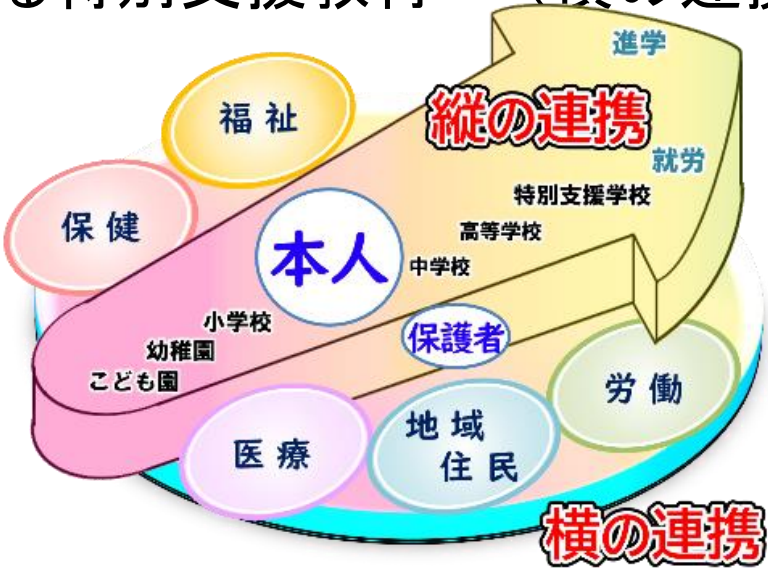
I 連続性のある多様な学びの場における教育の充実

～すべての学校園で取り組みつなぐ特別支援教育～（縦の連携）

II 連携による切れ目ない一貫した相談・支援体制の充実

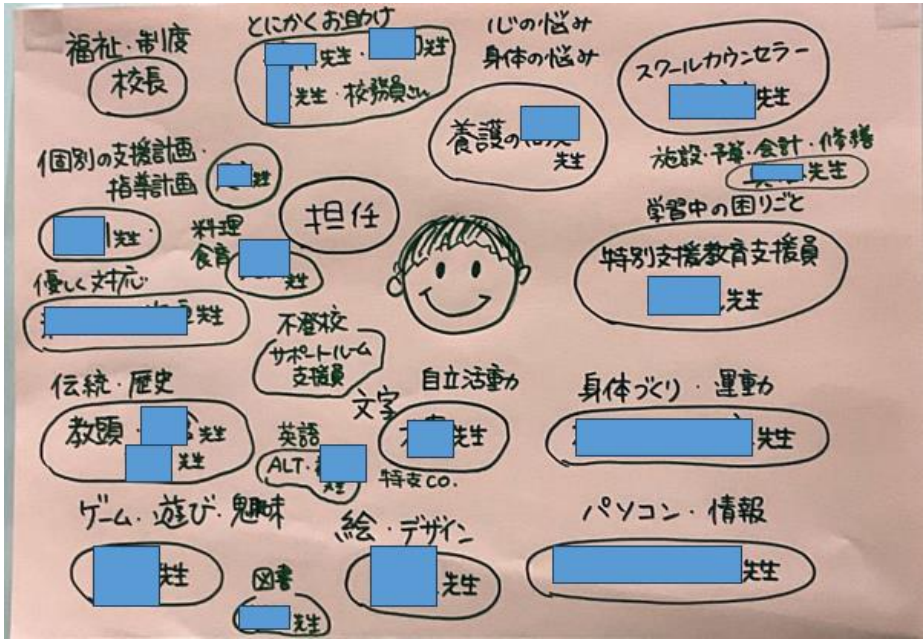
～早期から卒業後へ支えつながる特別支援教育～（横の連携）

インクルーシブ教育システムの理念の実現に向け
「**縦横連携**」を一層推進

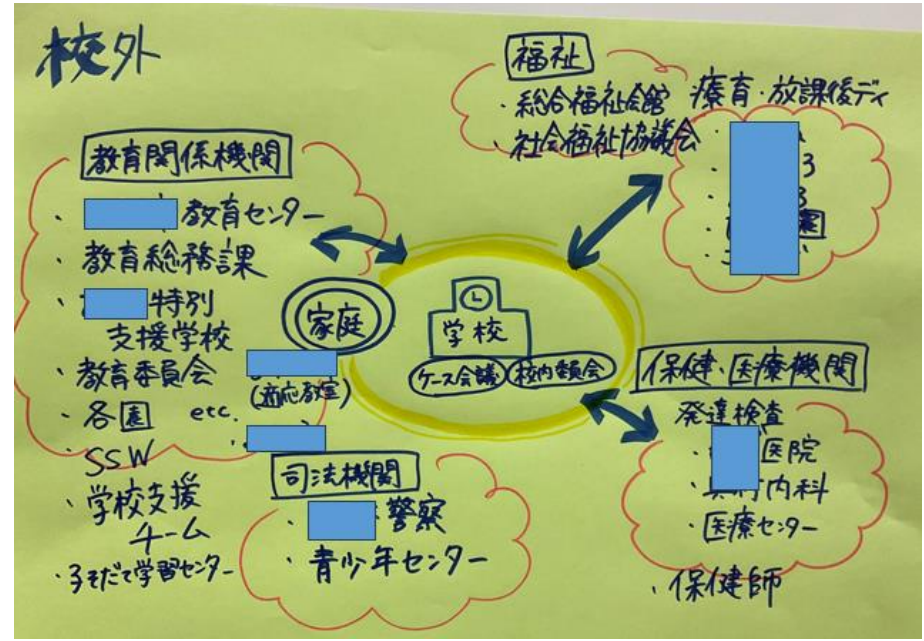


チームアプローチ

学校内外において多様化、複雑化する諸課題に対して、教師が**同僚教師**あるいは**関係の専門家等**と協働して解決にあたる。 安藤(2024)

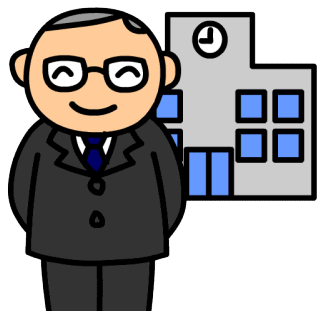


校内人材の活用



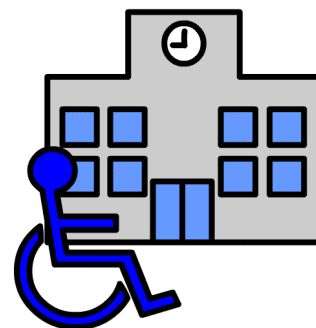
校外人材の活用

特別支援学校のセンター的機能活用



〇〇高等学校

管理職から
コーディネーターの
派遣を依頼



〇〇特別支援学校



支援マップ

依頼できる内容

- 指導支援に関する相談
- 関係機関の紹介
- ケース会議への同席等

近隣の特別支援学校との
連携を図り、
積極的な活用を！

センター的機能とは

特別支援学校が、各学校
の要請に応じて、個別の
教育支援計画等の作成・
活用等への援助を含め、
その支援を行うことを指
します。（学校教育法第74条）



参考資料

高等学校における 障害のある生徒等への進路指導ガイド

進路指導をしていて、この生徒は

- ・自分のことをよく知って、考えて、進路先を選んでいるのだろうか？
- ・この方向に進んだその先がイメージできているのだろうか？

と不安になることはありませんか。

このまま進めて大丈夫だろうかと感じるときに、その生徒が特別な配慮を必要とする場合があります。

そんなときに、手にとって活用していただくことを目的にこのリーフレットを作りました。困ったときなど必要などときにご活用ください。

目次

1 進路指導のポイント	
(1) 生徒の自己実現に向けた指導・支援	p.1
(2) 地域資源の整理・活用	p.2
(3) 周囲の環境の充実	p.3
2 指導・支援の具体例	p.4
3 進学するとき	p.5
4 進学以外の進路に進むとき	p.6~7
5 障害者雇用促進法について	p.8
6 障害福祉サービス利用の流れ	p.9
7 相談内容に応じた相談先の例	p.10~11
8 相談先について	p.12~14



兵庫県立特別支援教育センター

令和3年3月



榎本容子・井上秀和（2023）発達障害のある高校生のキャリア教育・進路指導ハンドブック. 学事出版.